やっとかめ文化祭

歴史まち歩き

20 菓子問屋街 新道・明道町

コース【地下鉄浅間町駅 ▸▸ 地下鉄浅間町駅】

嫁入り菓子から駄菓子まで 昭和レトロなお菓子がいっぱい

名古屋城築城の労働者たちに、疲労回復のために甘味菓子が売られたのが始まりとも、枇杷島市場へ集まる八百屋を相手に菓子を売ったのが始まりともいわれています。
この界隈は、昭和46年（1971年）まで路面電車が縦横に走り、多くの住民が菓子類の製造・販売に携わっていました。通りには店舗が連なって朝早くから「カンカン部隊」等の利用客で賑わう日本有数の菓子問屋街でした。

① 法蔵寺の鳴塚（しぎづか）

法蔵寺は真宗大谷派で山号は田中山です。歴史の古い寺ですが、この地に移ったのは、清洲越直後の寛永3年(1626年)です。江戸時代には樽屋町の大木戸を軸にした西の守りの寺でもありました。
鳴塚には貞享元年(1684年)芭蕉がこの辺りの田中の里で詠んだ「刈跡や早稲かたかたの鳴の声」の句が刻まれています。安政3年(1856年)冬、暉湖・三四等の発起で建てられたもので、文字は竹村鶴叟（たけむらかくそう）の筆です。傍らに当寺の住持大夢の建てた「鳴塚」としるした標石が立っていますが、これは再建碑で原碑は戦災で焼失しました。
芭蕉は那古野の円頓寺にも訪れ、「ありとあるたとえにも似ず三日の月」の句を残していますが、幅下で唯一の芭蕉の鳴塚の句は貴重な文化遺産です。昭和52年名古屋市史跡に指定されました。

② 菊水観音（きくすいかんのん）

江戸時代の創建。昔この辺りにきれいな水の湧く泉があり、「菊(水)の井」と呼ばれていたことが、菊井町の町名の由来ともいわれています。

③ 西願寺（さいがんじ）

創建は不詳（室町時代文明年間以前）、本尊は阿弥陀如来立像。もと名古屋村野口小市場（名古屋城三の丸）にあり、天台宗でした。文明年間（1469～1986年）甲斐武田氏家来の馬場式部維英（ばばしきぶこれひで）は出家して、天台宗の僧侶となり、その後、浄土真宗の蓮如上人に帰依・改修し、この寺を中興しました。名古屋城築城の際、幅下浅間町に移り、元禄13年（1700年）現在地に移りました。当初、名古屋城の西の守りとして、樽屋町の大木戸南に新道が開発されたときに配置され、門前町を形成し、関東大震災以降発展する貸工場・菓子問屋街に影響を与えました。

④ 崇徳寺（そうとくじ）

浄土宗知恩院の末寺。山号は万松山。創建は慶応2年（1866年）で、本尊は木造阿弥陀如来坐像。天保年間、海とつながっていたとされる甚目寺に、阿弥陀如来像が流れ着き、寺院創立者である浅野満蔵が自らの許嫁に拾われたものを貰い受け、その仏像を本尊として阿弥陀堂を建立したものです。
その後2代目浅野満蔵が亡き娘を供養し、地蔵菩薩を建立して衆生の延命長寿を祈願したのが境内にある延命地蔵です。（豆福さんの向かいになります。）

⑤ 菓子問屋街「新道・明道町」（しんみち・めいどうちょう）

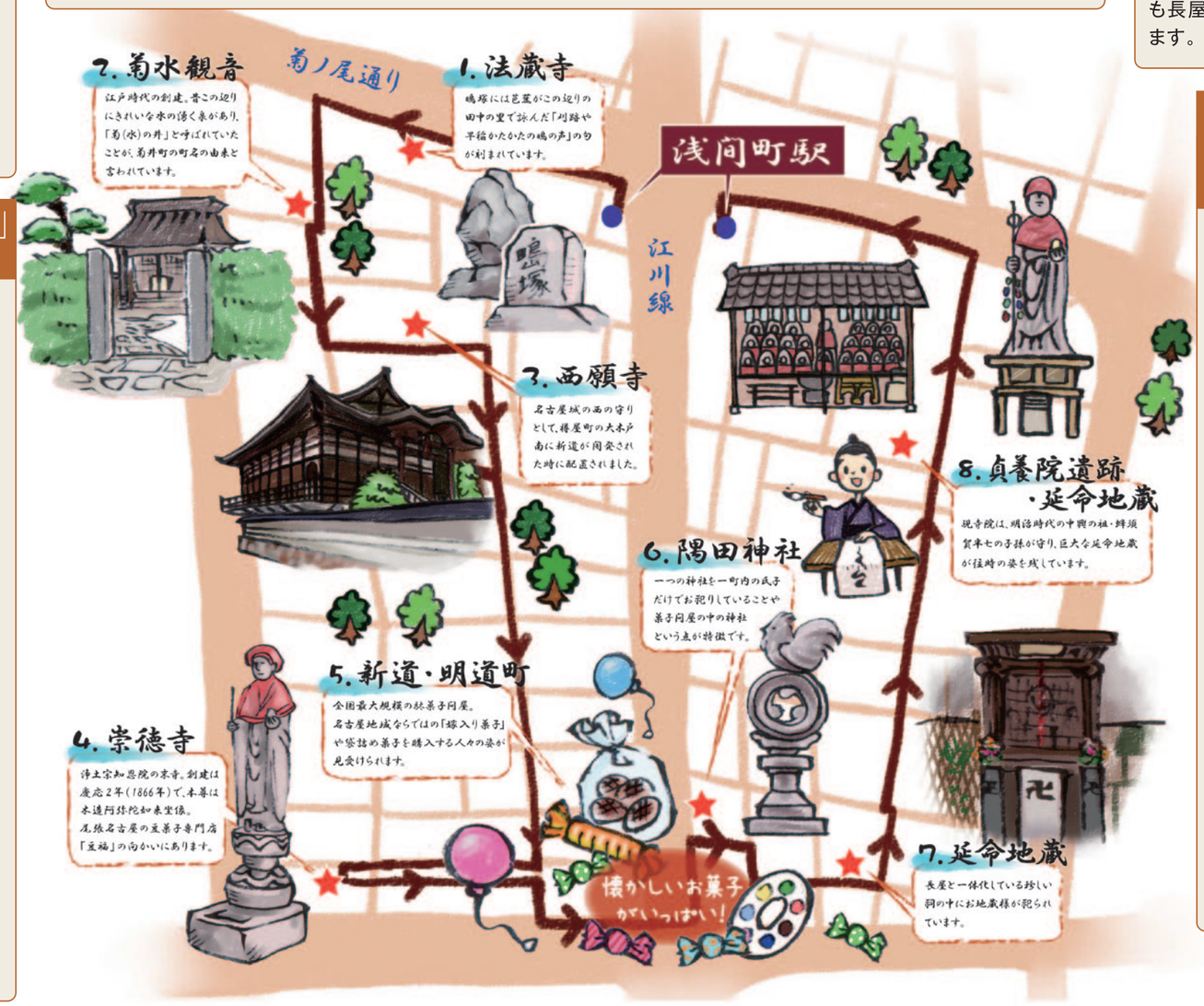
新道・明道町（めいどうちょう）は、名古屋駅桜通口から北東約1kmに位置する、全国最大規模の駄菓子問屋街。
江戸時代、美濃路を通る旅人に、下級武士らが手内職として、俗に駄菓子といわれる煎餅や飴菓子等を作り、文政の頃（1818～1830年）から盛況を見せましたが、本格的になったのは関東大震災の頃からです。
中京菓子玩具卸市場が平成12年（2000年）に閉鎖した後も、周辺で問屋が多数営業しており、終戦直後からの雰囲気がそのままの形で残っており、現在はここから全国の大半の小売店に駄菓子を出荷しています。主に小売店対象の取引ですが、一般客に小売りをしてくれる問屋も多く、観光客の姿も見られます。名古屋地域ならではの「嫁入り菓子」や祭りや子ども会行事などの目的で袋詰め菓子を購入する人々の姿が見受けられます。
またこの地域には、名糖産業、春日井製菓、丸川製菓、カクダイ製菓、松山製菓、マコロン製菓、安部製菓、共親製菓、加藤製菓などの多くの菓子メーカー（製菓会社）の本社や工場が所在しています。
1994年の町名変更で明道町という地名は消えましたが、バス停の名前や交差点名、都市高速の出入口名としては残っています。

⑥ 隅田神社（すみだじんじゃ）

祭神は須佐之男命（すさのおのみこと）と迦具土命（かぐつちのみこと）。創祀は元禄初年（1688年）といわれています。創祀当時、この地域は江川（現在の江川線）の東に沿った農村でした。元禄の初め、熱病の流行と村内で起きた火災をきっかけに、疫病防止と安全祈願のため、村民が祭神2柱を祀ったのが始まりです。
文政8年（1825年）畑地が開かれ町屋となりましたが、低湿地で大雨の時に池のようになり、西北の隅に人家が追いやられたため、隅田町と称したとされています。一つの神社を一町内の氏子だけでお祀りしていることや、菓子問屋の中の神社という点が特徴です。

⑦ 延命地蔵（えんめいじぞう）

古い長屋の建物と一体化した祠（ほこら）にお地蔵様が祀られています。由来は定かではないのですが、このお地蔵様のおかげでここだけが戦災から免れたと伝えられ、今も長屋の人達に大切に守られています。



⑧ 貞養院遺跡（跡地）（ていようういんいせき） 延命地蔵尊（堂）（えんめいじぞうそん）

貞養院は、浄土宗鎮西派西蓮寺（東門前町）末寺で山名は善光山。本尊は阿弥陀如来坐像。創建は開祖の十蓮社念誉林冏（じゅうれんしゃねんよりんけい）の逝去が正保3年（1646年）のため、創建は江戸時代初期と考えられます。
この地域は武家と商人が隣接し、美濃路がこのあたりを貫き、賑わいをみせていました。もとは尼寺で、明治16年に西蓮寺からこの地に移転しました。
昭和7年に幅下小学校が移転した際に、尼寺の敷地は小学校北側の給食室部分と幅下公園、延命地蔵堂、民家の敷地に分割されました。昭和55年、幅下小学校体育館改築の際、貞養院遺跡からも、江戸時代の「巾下水道」の遺構が発見されました。現寺院は、明治時代の中興の祖・蜂須賀半七の子孫が守り、巨大な延命地蔵が往時の姿を残しています。

〈注意事項〉この地図は「歴史まち歩き」の資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴でご参加ください。車などに十分注意し、各自で責任をもって行動してください。住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。●お問い合わせ：（公財）名古屋観光コンベンションビューロー　TEL 052-202-1145（この情報は平成25年11月現在のものです。）